

協働のまちづくり推進委員会（第1回）結果概要

日時：平成22年4月19日（月）18:30～21:00

場所：八戸市庁別館 2階 会議室C

本会議の結果概要を、次のとおり報告する。

■ 会議概要について

○ 平成21年度実施事業の評価について

- ・平成21年度に実施された市民奨励金制度に係る事業（5件）及び市民提案制度に係る協働事業（2件）の評価について、意見交換を実施。
- ・上記意見交換を基に、協働のまちづくり活動成果発表会（5/22開催）における委員会総評案を検討。

■ 今後のスケジュールについて

- ・4月24日（土）平成22年度市民奨励金公開プレゼンテーション審査会 開催
- ・5月22日（土）協働のまちづくり活動成果発表会 開催

■ 出席者（敬称略） ※参考

- ・前山総一郎 委員長
- ・北向秀幸 副委員長
- ・岩崎光宏 委員
- ・椛沢孝子 委員
- ・佐藤博幸 委員
- ・宮崎菜穂子 委員
- ・市民連携推進課（7名）

協働のまちづくり推進委員会（第1回）議事録

日時：平成22年4月19日（月）18:30～21:00

場所：八戸市庁別館 2階 会議室C

次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 委員ならびに事務局職員の紹介
- 4 平成21年度実施事業の評価について
 - (1) 市民奨励金制度にかかる事業 5件
 - ① 初動期支援コース（3件）
 - ② 事業拡大支援コース（2件）
 - (2) 市民提案制度にかかる事業 2件
- 5 その他
 - ・ 5月22日開催 活動成果発表会について
 - ・ 今後のスケジュールについて
- 6 閉会

（次第4）平成21年度実施事業の評価について

- ・ 各委員の21年度実施事業に対する評価内容をまとめた資料に基づき、事務局より評価ポイントを絞って説明。
- ・ その後、市民奨励金各コース事業（5件）及び市民提案制度による協働事業（2件）の評価について意見交換を実施。
- ・ 上記意見交換を基に、協働のまちづくり活動成果発表会（5/22開催）における委員会総評案を検討。

初動期支援コース①

南郷の環境を考える会 / 生ごみリサイクル体験学習会

■事務局

- ・ アンケートでの参加者の希望に応じて、自主的に追加学習会を開催するなど、自発性という面が評価されている。
- ・ 広範な学習会は意味が大きいという評価がされているが、一方で広く八戸市民が参加できる工夫が必要というアドバイスが出ている。
- ・ その他には、参加者が必要な情報を受け取れるような仕組み（ホームページなど）があると良いという、参加者へのフォロー体制についてのアドバイスが出ている。

■委員

- ・ EM菌を使った取り組みは、自然に優しく環境への影響が少ないため非常に良いと思う。

■委員

- ・ 事業の波及効果の所で、9月26日にグランドホテルで講習会が行われたとあるが、事業と

何か関わりがあるのか？奨励金事業とは関係なく実施したのか？

■事務局

- ・他に生ごみ処理に関する活動をされている団体の方々がいて、その方々から講習会に呼ばれたというお話だったと記憶している。
- ・事業としては、追加学習会を入れた4回となっており、グランドホテルでの講習会については事業と別である。

■委員

- ・グランドホテルを基点に活動している生ごみ処理の会という団体がある。うちの会長はその団体に所属しており、唯一会員の中でEM菌に詳しいので、彼を講師的な役割として講習会をグランドホテルで開催した。
- ・40人ほどの参加者を見込んだ講習会だったが、倍ぐらいの人が集まり、非常に関心が高いということを確認したということを書いたのだと思う。
- ・南郷の環境を考える会自体に関わりを持ったということではなく、個人的な関わりである。

■委員

- ・これは八戸市が進めていたコンポストとは違うものなのか？

■委員

- ・私もあまり詳しくないのだが、処理の仕方が違うのだと思う。

■委員

- ・以前、(コンポストは)臭いがすごいということで普及しなかった覚えがあるのだが、これは臭いがあまり出ないものなのか？

■委員

- ・うちの講座でも、EM菌を使った石鹸づくりや田んぼづくりなどをやっているのだが、水を浄化したり、臭いがしないという実感がある。

■委員

- ・今後はこれを広げていくということに加え、もっと進んだことをやるという考えなのか？

■委員

- ・ある程度、EM菌の知識がないと出来ないのでは、もう少し分かりやすくして、八戸市の全ての方が家庭でもうまく処理できるようにしていきたいという考えである。
- ・もっと広く市民に周知するため、市の広報紙に載せたいのだが、2ヶ月前に原稿を提出しなければならず、時期的な関係もあって載せづらいということがある。市の広報紙は一番分かりやすく、お金を掛けずに周知できていいのだが、締め切りが早い。

■委員

- ・新聞への投げ込みであれば、1ヶ月くらい前であっても載せることができるので、そういう方法もあると思う。

■委員

- ・町村だと1ヶ月くらい前でも融通が利くことはあるが、八戸くらいの規模になると色々あるから難しいのかもしれない。

■委員

- ・学習会は人数的にどのくらいがいいのか？

■委員

- ・人数が多すぎても収容場所や経費が掛かるという問題がある。広範に知らせたいのだが、多くの人 came ときの対応を考えると、あまり広げたくないのかなというような気がする。

■委員

- ・この事業は南郷区の地域計画とリンクしているのか？

■委員

- ・そうである。

■委員長

- ・そういう意味では、基本的には南郷区を基盤にしており、余力があれば市全体に広げたいということ。

■委員

- ・公民館から依頼があれば、来て説明などをしてくれるものなのか？

■委員

- ・今も色々な所に行っている。EM菌の作り方や生ごみの処理の仕方を教えて欲しいという依頼があり、会長が中心となって行っている。

■委員

- ・そういう形で広めていければいいかもしれない。

■委員

- ・自分の経験から言うと、できた堆肥を消費してくれる所があると、もっと普及すると思う。どうしても自分の所だけでは、庭しかないので処理しきれない。そこまでやってもらえれば、安心して取り組んでもらえる気がする。

■委員

- ・市と連動しながら、肥料を定期的に回収して、畑にかえしてやるという循環をさせていければと思う。普及しない理由が、その辺にあると思う。

■委員

- ・EM菌のぼかしは、岩手県だと福祉施設などで作って道の駅で売っている。八戸では見たことがなく手に入らない。そういうことも普及しない一つの理由になっている気がする。福祉施設とかと連携していけば、ぼかしを量産できると思う。

■委員

- ・非常にいい取り組みであり、時代に適合した活動なので、もっとやっていくと色々なことが出てくると思う。

初動期支援コース②

鮫元気大作戦本部 / 鮫元気大作戦

■事務局

- ・地域の方々がつながっている様子が見受けられる、小学校との連携の意義は大きい、地域の協力を得ての子ども達の郷土愛を育む取り組み、参加者が活動趣旨に賛同し新規会員へとつながっている、学校や保育園など女性が中心のコミュニティを活用された活動など、連携という面で評価されている。
- ・意見・アドバイスでも、自治会組織との連携を更に深めたらどうかとか、観光ボランティア

団体などと協力することがあっても良かったなど、連携という面でのアドバイスが出ている。

- ・また、紙芝居の題材を鮫近隣から八戸へとつなげてはどうかなど、今後の活動へのアドバイスが出ている。

■委員

- ・女性だけでこういう活動をしているのはなかなかない。団体としての存在が鮫地区の中で価値を生んでおり、非常にいいチームが育てられているという感じがする。NPOとは違ったこういうチームが動いていることは非常にいいと思うし、視点が全然違うと思う。

■委員

- ・確かにつながっていている感じがする。

■委員

- ・新聞の写真を見るかぎり、30代・40代の女性が中心となってやっていて、これから10年・20年とやられていくと思うので、非常にいいことだと思う。

■委員

- ・連携という部分が評価されており、女性が中心となり色々な方々とつながっていて、しかもパワーのある世代が中心となってやっているので、今後期待できそうな感じがする。

■委員

- ・大変いい活動をしていると思うし、もっと広がっていけばと期待もしている。
- ・しかし、こういう活動に対して、地域の人達は以外としらけている。活動をしていく者にとっての一番の支援は地域住民の協力であるが、県南地域の特徴なのかもしれないが、皆で協力してやっというところが地域の中で弱い感じがする。このことは、協働のまちづくりを進める上でもネックになっている部分ではないかと思う。だから、自治会組織と連携して進めていき、地域全体で取り組んでいければと思う。

■委員

- ・市川地域連合町内会ができて、初期事業として花植え事業とグラウンド整備事業をやったのだが、1つずつでいいのではないかという声があるなど、反発の声もあった。だから、よくこんなにやったな、すごいなという感想がある。やはり、急に頑張ろうとすれば反発も強いと思う。

■委員

- ・確かに裏でしらけている人がいるが、そういうものは表に出てこない。長くいい活動にしていくなめには、〇〇委員がおっしゃったように、自治会組織と連携するなど、足腰の強いものにするといいと感じる。また、△△委員がおっしゃったように、一挙にやると反発があるということもあるのは確かである。

■委員

- ・幼稚園や小学校と上手く連携しているようなので、PTAの方々と上手く協力できれば、ジャンパーとかはあるし、花の苗は提供してくれる団体もあるみたいなので、続けていけるのではないかという気がする。

■委員

- ・PTAとの関係はどうか、事務局で情報はあるのか？

■事務局

- ・紙芝居を作るに当たり、PTAというか、鮫小学校の「おはなし会」に協力してもらったということで、その方々と協力してやっていける体制が築けてきたかなという所である。

初動期支援コース③

素浪人プロジェクト / 森の手づくり市

■事務局

- ・ツリーハウスのある森を活用、地域の資源である里山を利用、こういう活動を行っている団体は県内でも珍しいなど、独創性という面で評価されている。また、広く市民を対象としているということで、公益性という面でも評価されている。
- ・意見・アドバイスとしては、市川地区活性化とも結び付けていければとか、市川地区の住民がもっと参加できるような工夫をしたらどうか、今後近隣地域とどう関わっていくのかなど、地域との関りについてのアドバイスが出ている。
- ・また、イベントを終えてどういう波及効果があったのか、会場内での出展者販売の売上と奨励金事業との関係はどうなっているのか、販売場所を提供しているだけなのかなど、質問事項が出ている。これらについては団体へ後日伝え、発表会の際に質問内容を踏まえた発表をしていただくことで考えている。

■委員

- ・出店者の売上との関係はどうなっているのか？売上の10%と書いてあるが、事業収入を得て、かつ売上を出すような場合、比率ではないが、ある程度の目安がないといけないのかなという気がする。
- ・基本的にはツリーハウスをつくる人がいないから、それを活かすのは面白いという気がするが、八戸と何か関連するのだろうかという疑問がやはりある。ましてや、市川地域とどう関連させていくのかという部分がある。
- ・こういう人達が地域で何か仕掛けたいという時には、ある程度の比率なり、予算的な部分での審議が必要かもしれない。

■委員

- ・以前、ACTYさんが湊で地域を巻き込んでやったイベントと、場所は違うが仕掛け的に似たような所があると思う。そういう意味では、地域に限定しないでポリシーを持った人達が集まったイベントをやったという点では、違った感じの協働という気がする。

■委員

- ・この団体は地域ともっと結びつきを強めていきたいという将来像を持っているようだが、それができるのかどうか、このままのスタイルのほうがいいのか、地元が関わったほうが本当はいいのかもわからない。

■委員

- ・テーマ型であるから、地域とのつながりとかノウハウがあまりないように感じる。

■委員

- ・違う視点なのだが、事業目的の所で環境問題をうたっているの、南郷区での生ごみ処理の取り組みではないが、そういう団体がそこに仕掛けていきデモンストレーションをやったりすれば、多くの人に知ってもらえると思うし、つながりも生まれると思う。

■委員

- ・市川地域の人達は、これに対して、どういうふうな雰囲気なのか？

■委員

- ・どちらかといえば考え方が違う。地域としては、市川のためにという発想のものではないので、協力していこうという考えは今の所ない。趣味の延長のような形でやっているの、町内会とは考え方が違う。

■委員

- ・三春の滝桜（福島県三春市）を見てきたのだが、たった1本の桜で農産物の販売から加工品を作ったりなど、まちおこしをしている。
- ・せっかく農業が盛んな市川でやっているのだから、産直をやるなど、そういう活動場所にも展開できるのかなと思う。

■委員

- ・非常にいいご提言だと思う。例えば、産品を開発したり、森の物を使って自然体験をするとか、そういうことを通じて地域と密着していければ、もっといいと思う。
- ・活動への意欲もあって、いいことをしているので、三春の滝桜の事例みたいに、まちおこしという形で地域と上手く結びついていければと思う。

■委員

- ・市川地域は将来的に道の駅を作りたいという構想があり、その過程として産直をやってみようということなので、それと上手くドッキングさせていくと面白いと思う。

■委員

- ・先程の出店者の売上と奨励金事業との関わりについて、一定の比率を決めるということについては？

■委員

- ・事業拡大支援コースであれば、団体の事業拡大を目的としたイベントを開催し、そこに出演者があっても審査の中で特にもめることはなく、そういう点を考えると、先程比率を決めたらどうかという話をしたのだが、そういうわけにもいかないと思う。
- ・やはり、奨励金に関しては、事業の目的が奨励金の目的と一致しているかどうかを判断することが大切だと思う。

■委員

- ・収入は奨励金と事業収入があるが、結局収益を上げているわけではないので、やはり活動の趣旨なのだと思う。

■委員

- ・事業自体と奨励金の目的がマッチしているかどうかの判断を、やはり委員会で話をする必要があると思う。マッチしているのであれば特に問題はないし、マッチしていないのであれば、自立していくためのアドバイスをするということはあるかもしれない。

★初動期支援コース総評案★

- ・いずれの団体も活動をベースにしている地域の特性を活かすなど、非常にいい形で活動をされている。
- ・各団体が目的に向って前向きに活動されていて、非常にいい1年を過ごされたように感じるとともに、初動期を支援するという奨励金の目的が達成されたように感じる。
- ・すでに他団体などうまく連携している団体もあるが、今後はさらなる連携を図り、活動を継続して行っていただきたい。

事業拡大支援コース①

白銀公民館サポート「男の料理」／「白銀おしまこ」の普及と伝統芸能の復活事業

■事務局

- ・地域の各団体が横に連携している、公民館活動が地域活動と結びつくことで大きな広がりを見せている、地域連帯が進んだなど、連携という面で評価されている。
- ・文化伝承にふさわしい人材が発掘できているという評価をいただいているが、一方で子ども達への文化の伝承方法を検討されたらどうかという意見が出ている。
- ・その他に若い世代をどう巻き込むかが今後の課題とか、市の助成金なしでも自立できたのではないかというご意見が出ている。

(事務局から報告)

- ・白銀公民館サポート「男の料理」から、この事業での市奨励金への応募は今後できないということで、今後の活動についての相談を受けた。
- ・そのため、むつ小川原の助成金を紹介したところ、採択されたということで、来年度は下北の田名部おしまこと連携し、おしまこサミットのようなものを開催するようである。

■委員

- ・すでに備品は今回で揃っていると思うから、あとは消耗品的な物を揃えればやれると思う。会費収入が少ないので、勉強会とかになると厳しいかもしれない。

■委員

- ・他団体と共催することで、要は同じことを別な視点でやろうとする時に、例えば自分達はこれだけしかないけれども、そちらでこの分だけ出してくれば人も資金も倍になるからということができるので、そういう発想も必要かと思う。
- ・団塊の世代の人達のグループなので年齢が比較的高く、活動に参加してくれる方も年齢が高くなっている。やはり子ども達を巻き込む工夫を、小学校とかと一緒に考えていくことが必要だと思う。せっかく公民館をサポートしている団体なので、子ども達を巻き込んでいく工夫が必要。

■委員

- ・学校の先生は関りをもっていないのか？

■委員

- ・現役の先生は関っていないが、グループの中には校長先生だった人もいる。そういう方の力を借りて現役の先生や子ども会を巻き込んでいければ、資金的支援は難しいかもしれないが、人的支援とかはできるのかなと思う。

■委員

- ・子どもについて、女性が入ってくるとその辺も視野に入ると思う。
- ・団塊の世代の男性が一致団結してやっているというのは非常に数少ないケースであり、奨励金でこういう動きを付けられたということは、非常に意味が大きいと思う。うまく奨励金が活かされたと思う。

■委員

- ・一度この団体とジョイントしたことがあるのだが、備品が足りなかつたりすると、それぞれの方達が「うちにはトラックがある、テントがある」などと言って、喜んで協力してくれる。他の地域や団体から協力の声を掛けられた場合でも喜んで協力してくれる。

■事務局

- ・この団体は、一昨年に初動期支援コースで市が助成し、今回事業拡大支援コースということで、ここまで成長ぶりが見られたということはすごく大きいと思う。

事業拡大支援コース②

三八城連合町内会 / みやぎさん祭り歴史勉強会

■事務局

- ・今後の地域おこしにつながっていく大きなきっかけとなったのではないだろうか、地域の活性化に向けた活動の第一歩、地域づくりに貢献したなど、地域活性化という面で評価されている。
- ・意見・アドバイスとしては、子どもだけを対象とした歴史勉強会があっても良かったとか、今後は子ども向けの勉強会資料の編集をしたらどうかなど、子どもを対象にするといった部分でのアドバイスが出ている。また、各地区自治会の啓蒙と連携が今後の大きな課題であるというような、今後の活動へのアドバイスが出ている。

■委員

- ・今回で備品などハード面が揃ったと思う。祭りは毎年やっているということで、次にさらに多くの人に集まっていただくための仕掛けという部分について少し心配がある。やはりこういう所は白銀に学ぶ部分があると思う。
- ・以前、審査の際に祭りへの地域の方の参加が弱いという話をしていた記憶があるのだが、その辺はどうなのか？今回を機に変わってきたという部分があるのか？

■事務局

- ・参加者は恐らく変わっていないかもしれないが、この事業をやるにあたり団結力が強まってきているように感じる。今後の巻き込み方という部分が必要になってくると思う。

■委員

- ・公民館とは連携していないのか？

■事務局

- ・していない。

■委員

- ・もの足りない感じがする。今後、白銀や大館のようにうまくいっている所と交流していければ、非常に勉強になると思う。横の連携を図っていければと思う。

■委員

- ・事業を実施するに当たり、恐らくもっと多くのことをやられていると思うのだが、実績報告書には出てきていない。色々と苦勞もあったと思うのだが、そういう点でもの足りないという印象を隠し切れない。

■事務局

- ・実際のところ、三八城は市に相談に来ている回数が非常に多く、恐らく何度も打合せなどをやっていたと思う。

■委員

- ・資源としてはいいものを持っている地域だと思う。それをうまく活かそうとして活動しているのだけれども、ただそれが続くかどうかという所が少し危惧されているように思う。

■委員

- ・鮫のように学校と連携したり、白銀のように他と連携することが必要だと思う。三八城地域には八戸小学校もあるので。

■委員

- ・八戸小学校は非常に元気があり、それこそ馬淵川の方などとも関ったりしているので、もう少し地域のほうで引っ張ってもいいような気がする。

■委員

- ・連合町内会の事業拡大としてやった結果、奨励金をどの程度活かすことができたのかという部分と、今後今回の経験をどのように活かしていくのかという部分が聞きたい所である。この報告書ではそれが分からない。自己評価の欄で、他団体との共催が見られなかったことを反省点として挙げているので、次にどうしていかなければならないのかという所になってくると思う。
- ・ちなみに、小冊子は子ども用ということだったのに、なぜ大人用になってしまったのか？

■委員

- ・冊子もそうだが、チラシもどう見ても仕様が大人向けだし、子ども向けのものではないと思う。それこそ夏休みの時期だったので、学校の講堂にでも行ってやったほうが良かったのではないかと思う。

■委員

- ・思い切って紙芝居のような形にしても良かったかもしれないし、子ども会を巻き込んで良かったと思う。

■委員

- ・正部家さんが講師になっている。

■委員

- ・正部家さんとの打合せの段階で子ども向けということが伝わらなかったのかなという気がする。この資料はこの講演会のために作った資料なのか？

■事務局

- ・引用部分はあるかもしれないが、講演会のために作った資料である。

■委員

- ・当初の目的と違うことになってしまったのは、やはり突っ込み所になってしまったと思う。

■事務局

- ・みやぎさん祭りは 20 年度に始められたお祭りで、21 年度はこの勉強会も組み合わせて大きくやって呼びかけたいということであった。
- ・三八城にはお祭りがないので、地域の活性化を図っていくためにお祭りが欲しいということになり、それで地域の資源としてみやぎさんがあるから、そこで盆踊りをやろうということではまった経緯がある。

■委員

- ・もともとお祭りはあったはずである。子どもの頃にみやぎさんで行われていた盆踊りとかに来たことがある。

■事務局

- ・盆踊りのようなものはやっていたと思う。今もおがみ神社でやっているが、みやぎさん祭りということではなかったと思う。

■委員

- ・事業拡大とはいっても、2 年目であるから、ある意味初動期であると思う。

■委員

- ・まずは第一歩ということで、次に対するアドバイスが沢山でてくると思う。

■委員

- ・三八城の地域担当職員の関りはどうだったのか？

■事務局

- ・他の事例等の情報提供をするなどしていたが、企画的な所では関っていない。

■委員

- ・三八城の住民自治推進懇談会に行ったのだが、そこで地区として高齢化が進み町内会加入率が低いという問題を抱えているという話が出ていた。だからこそ、こういう事業を一つのきっかけとして、まちおこしをしていかなければならないということで、苦しかったと思う。何とかこれを踏み台にしてほしいと思う。

■委員

- ・何回も市に相談しに来たということでも、そういう苦しさがあったのだと思う。

事業拡大支援コース総評案の検討

★事業拡大支援コース総評案★

- ・三八城は初めての奨励金で第一歩を踏み出した所であり、白銀は 2 回目の奨励金ということで前回の経験を踏まえ着実にステップアップしているように感じる。
- ・両事業とも地域活性化につながる事業であり、地域性をきちんと把握し活動していくことが重要である。
- ・今後は、高齢化が進んでいる中、他団体などと連携して子ども達や若い世代を巻き込んでいき、活動を継続して行っていただきたい。

市民提案制度による協働事業①

マンタ健康クラブ、スポーツ健康課 / 総合型地域スポーツクラブPR&モニター事業

■事務局

- ・行政との連携の意義は大きい、それぞれ役割分担をし事業の目的が達成されている、単体の事業主体であれば実行が困難であった、参加者の満足度は高いなど、協働することによる一定の評価を得ているように思う。
- ・意見・アドバイスについては、対象者の焦点化が有効、子どもの参加が可能な時間帯の設定や周知方法、他団体との連携など工夫が必要という、今後の活動へのアドバイスがでている。

■委員

- ・総合型地域スポーツクラブの設立に向けた足がかりになったのかなという検証の部分聞いてみたい所である。

■委員

- ・今後、この協働事業をどうしていくかなど、そういう話はでているのか？

■事務局

- ・特に出していない。この事業は今回で終了することになっている。

■委員

- ・今回で終了してしまうのは非常にもったいない感じがする。

■委員

- ・東体育館での参加者は20人ということで、このくらいの動きのスポーツであれば公民館でもできたのではないかな？そうすれば、もっと告知ができて集まりやすいのかなという気がする。

■委員

- ・どの場所でもできると思う。この事業は組織だったスポーツクラブを設立する人の意識の高揚を図っていくというものであり、説明会などをやっているように、単なる楽しむために来るというものではないはずである。

■事務局

- ・総合型地域スポーツクラブというものが何であるのかということを広く市民に知ってもらうためのものであり、設立させるという所までのものではない。PRなので、人を集めるための一つの方法として健康教室をやろうというものであり、その前に説明会を行いアンケートをとっていかうという事業である。

■委員

- ・評価シートには、確かに総合型地域スポーツクラブの設立を促すものではなく、周知する場として健康教室を開催すると書いている。しかし、人数が少ないので周知という面で弱い感じがする。

■委員

- ・23地区に分けて小単位で実施したほうが効率的であったのではないかなと思う。

■委員

- ・アンケート結果を、どのように活かしていこうとしているのかが見えない。周知に関してであれば、どう次につなげようとしているのかなど、その辺が見えてこないという感じが

する。

■委員

- ・どこに対してPRしたかったのか？対象年齢がはっきりしていなかったと思う。もしかしたら、小学生向きだったかもしれない。やってみなければ分からないと思うが、最初からPRというだけでは目的が弱かったのではないかと思う。

市民提案制度による協働事業②

NPO法人みちのく国際日本語教育センター、学校教育課、市民連携推進課

／ 外国語を母国語とする児童生徒に対する日本語教育支援事業

■事務局

- ・公共性・公益性の観点からも協働事業の本旨として適合的な事例、協働の意義・事業目的が十分に達せられた、協働したことによりそれぞれが有効に機能、一体となつてうまく連携し事業を実施、協働の手法を使って地域団体を活用していく試みとして成果を挙げているなど、協働の視点として全体的に高評価となっている。
- ・意見・アドバイスとしては、受入れ可能な外国語支援者の確保とそれを公開するなど事前に対策を講じたかどうか、スタッフが十分いるのか、今後学校からの依頼が多くなった場合の対応についての検討が必要など、受け入れ体制の面でのアドバイスがでている。

■委員

- ・最初は学校教育課の反応が良くない所からスタートしたが、すごい成功した事例だと思う。

■委員

- ・この事業により行政側が随分変わったと思う。

■委員

- ・行政は平均的にサービスを提供しなければいけないということがあるので、3人というのは以外と少ないと思うかもしれないが、学校側からすると3人だとしても、やはりニーズがあるということになる。
- ・評価する際にコストとして割に合うのかと考えたのだが、現状として先生方がやらざるを得ない状況になっているからコストとしては見えてこないが、実はそこでコストがかかっている。行政としては直接できないサービスだと思うので、協働でやることによって効果があるなと感じた。ただ、講師への謝礼が1,000円で、持ち出しもあるようなので結構大変だなと思う。

■委員

- ・確かに謝礼が1,000円というのは少ない感じがする。
- ・はじめは行政が保守的な感じがしたが、市民からこれだけの提案をされ、結果柔軟になってきたなという気がする。そういう意味でもかなりの成功事例なのだと思う。

■事務局

- ・この事業が分かりやすかったのは、到達点の共有をしやすかった所だと思う。目の前にいる日本語を話せない児童生徒を何とかしたいという、その到達点が一点だったので、はじめは離れていた意識が、到達点が見えることにより突き進んだ。そこがこの事業のポイントだと思う。

■委員

- ・確かにそういう点は大きい。健康というと非常に広範で焦点を掴みにくい部分がある。
- ・謝礼が 1,000 円ということで、恐らく自発的に参加しているのだけれども、やはり活動を続けていけるよう一定の対価を払うことも必要なのではないかと思う。1,000 円では赤字だと思うので、それでは続かないという感じがする。せっかくいい事例なので、何とか続けてもらいたいと思う。

■委員

- ・現職の時に同じような苦しい思いをしたことがあるため、この事業があって良かったとつくづく感じる。今後、ニーズがあった時にそれに応えられるような体制で継続していけたらと思う。

■委員

- ・この事業では小中学生が対象だが、例えば公立・私立の高校で、行政とは関わらずに依頼をしたいという所まで発展していけるものなのかどうか、その辺を聞きたいと思う。
- ・実際、去年うちの学校に中国人留学生が 1 人来たのだが、その子は全く日本語ができず、多少英語ができる程度の子だった。何とか 1 年で日本語を話せるようになったかなと思っている所に、また日本語ができない留学生が来てしまったということがあり、先生方はその対応に非常に苦慮している。みちのく国際日本語教育センターのような団体があるということで、予算さえ付けば依頼したいという話が教員側からも出ているので、そういうニーズがあった場合、発展的に考えてもらえるのかという所がある。

■事務局

- ・みちのく国際日本語教育センターは、恐らくそういう要請があれば対応できる団体だと思う。ただ、大学生くらいのレベルになると、実は国際交流協会がみちのく国際日本語教育センターへ委託して、夜に日本語教室をやっている。それは初級から上級までランクが分かれている。

■委員

- ・夜だと難しい部分がある。留学生が市内に住んでいればそういう所を勧められるのだが、市内に住んでいないので、結局バスを使ってということになり、少ない留学費では行けないのが現状である。8 時 30 分から 18 時までのあいだに、そういう教育をしてあげなければならないといった場合、どうしたらいいかということがある。

■委員

- ・留学生はどこを本拠としているのか？

■委員

- ・五戸である。紹介してくださる方がいて、その伝を頼って留学している状況なので、なかなか難しい。

■委員

- ・みちのく国際日本語教育センターに委託しているということだが、依頼を受ける側の料金はどのようになっているのか？

■事務局

- ・年間 3,000 円から 4,000 円と非常に低料金になっている。これは国際交流協会の事業として講師の方々の謝礼分を委託料で払っているなので、低料金でできている。これが個別にと

ということになれば、低料金ではできないと思う。委託料自体もそんなに高くないので、営利ではない形だと思う。

■委員

- ・講師の方々は講師養成学校のような所で勉強し資格を取ってきていると思うので、そういう部分では気の毒である。本当にボランティアでやってくださっていてありがたいと思う。八戸では外国人に日本語を教える講師の資格を取る所がないが、県レベルになると講師養成講座のようなものがあり、そこで資格を取れるようである。

■委員

- ・みちのく国際日本語教育センターばかりではなく、日本語を教える講師を育てるような形をもう少し取っていき、そういう人達を増やしていければいいと思う。そうすれば、みちのく国際日本語教育センターが困った時に他でサポートできるようになりいいと思う。そういう体制が必要になってくるのかもしれない。

市民提案制度による協働事業総評案の検討

★市民提案制度による協働事業総評案★

- ・総合型地域スポーツクラブPR&モニター事業については、参加者は少なかったものの今後の展開の足がかりがつかめたように感じる。
- ・日本語教育支援事業については、公共性・公益性の観点からも協働事業の本旨として非常に理想的なケースである。
- ・協働事業は目的を明確にすることで、パートナー間での意識の共有が図りやすくなるとともに、目的の実現に向けたより効果的な取り組みが期待される。
- ・マント健康クラブとの協働事業は今回をもって終了で残念であるが、団体としての活動は継続していただき、また機会があれば協働で事業を実施できればと思う。みちのく国際日本語教育センターとの協働事業については、ぜひ今後も協働事業として続けていっていただきたい。

(次第5) その他・今後のスケジュール

- ・4月24日(土) 平成22年度市民奨励金公開プレゼンテーション審査会を開催
- ・5月22日(土) 協働のまちづくり活動成果発表会を開催

(H22 市民奨励金企画提案団体「市民活動団体 SMIRING」の事業内容変更についてお知らせ)

- ・市民活動団体 SMIRING の事業について、当初、山元加津子 氏を講師に招き講演会を開催することとしていたが、講師の都合がつかず、以前「うつは薬じゃ治らない」という講演会で講師をした宮島賢也 氏に講師を変更することになったとのことである。これから事業計画書を修正し提出してもらうので、準備ができ次第、修正した事業計画書をメール又は郵送で送付したいと思う。